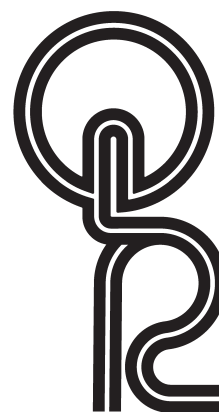


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 18 No.3, 2011



宮城県山元町で観察された2011年東北地方太平洋沖地震の津波堆積物。仙台平野は海岸線からおよそ3~4 km内陸まで、津波によって運ばれた砂質および泥質の堆積物によって広く覆われた。(撮影と解説：穴倉正展)

Vol. 18 No. 3

June 1, 2011

東北地方太平洋沖地震にあたり・・・2	露頭集・第四紀研究特集号の販売・・・6
2011年大会案内・・・2	幹事会議事録・・・7
信州フィールド科学賞募集・・・4	会員消息・・・7
INQUA 招致関連のお知らせ・・・5	学生会員継続届・・・7
科研費採択に関するお知らせ・・・5	大阪市立自然史博物館特別展案内・・・8
第四紀研究地学教育別冊号の刊行・・・5	海底地形名称提案募集・・・8

◆平成 23 年東北地方太平洋沖地震の発生にあたり

日本第四紀学会会員および関係者のみなさまへ

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日 14:46 にマグニチュード 9.0 という東北地方太平洋沖地震が発生し、甚大な被害をもたらされました。この災害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げるとともに、お亡くなりになられた多数の方々に心から哀悼の意を表します。

この地震と災害は、この巨大地震を引き起こした三陸海岸沖から茨城県沖まで 500 km にもおよぶ範囲で運動して活動したプレート境界断層について、津波対策が最も進んでいた三陸海岸を含め広域に破壊的ダメージをもたらした大規模津波について、現在進行形の原子力発電所事故を含め派生する様々な問題について、救援・復旧・復興を如何に進めるかについて等々、私達に多くのことを投げかけているように思います。

私達は関係学会・機関との連携のもとで、その実態の解明にあたりるとともに、その中から多くのものを学びつつ、地震国の国民として結束してこの災害から発する困難に立ち向かい、さらにその経験を将来に生かしていくことが求められていると思います。日本第四紀学会はその一翼を担って努力していきたいと思ひます。

（2011 年 3 月 16 日 日本第四紀学会会長 遠藤邦彦）

この地震・震災に関連する情報は、日本第四紀学会および日本地球惑星科学連合のホームページを参照ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/>（日本第四紀学会） <http://www.jpogu.org/>（日本地球惑星科学連合）

◆日本第四紀学会 2011 年大会案内（第 3 報）

日本第四紀学会 2011 年大会が以下の予定で開催されます。多数の皆さんのご参加をお願いいたします。

1. 日時・開催場所

2011 年 8 月 26 日（金）～ 8 月 28 日（日）

鳴門教育大学（徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748） 講義棟ほか <http://www.naruto-u.ac.jp/>

2. 日程

8 月 26 日 一般研究発表（口頭およびポスター）・評議員会

8 月 27 日 一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・懇親会

8 月 28 日 午前：公開シンポジウム「環太平洋の環境文明史」

午後：普及講演会（いずれも演題等詳細は大会ウェブサイトでお知らせします。）

8 月 29 日 アウトリーチ巡検（日帰り）

3. 発表の申し込み

前号でお知らせしたとおり、一般研究発表（口頭およびポスター）の参加申し込み締め切りは 2011 年 6 月 9 日（木）です。前号の＜発表の申し込み＞を参照のうえ、①発表申し込み書、②講演要旨原稿のそれぞれを、指定メールアドレス（[jaqua2011\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2011(at)gmail.com)）に送信、または行事幹事（三浦英樹）に郵送して下さい。

4. 参加費・懇親会申し込み等

○大会参加費として、会員・非会員を問わず 2,000 円を申し受けます。会場受付でお支払い下さい。ただし、70 歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。

○講演要旨集は、会場で直接販売いたします。

○会期中の昼食：8 月 26 日のみ大学食堂が営業しています。会場周辺には 3 件程度の食堂しかありません。8 月 27 日・28 日の昼食については、こちらで仕出し弁当を注文します。数量確定のため、懇親会とあわせて（下記参照）、弁当の予約をお願いします。予約は 7 月 29 日（金）までに E-mail：[ksaitou\(at\)naruto-u.ac.jp](mailto:ksaitou(at)naruto-u.ac.jp) か Fax：088-687-6411 にて大会実行委員事務局・齋藤までご連絡下さい。必要事項は以下のとおりです。

：ご氏名、昼食の予約（8 月 27 日・28 日 必要な期日と個数を明記して下さい）

○懇親会に参加される方は申し込みをお願いします。

日時：8 月 27 日（土）18:00～（予定）

会場：鳴門教育大学・大学会館第 1 食堂

参加費：一般 5,000 円（予約：当日申し込みは 6,000 円）、学生 2,500 円

予約：7 月 29 日（金）までに、E-mail：[ksaitou\(at\)naruto-u.ac.jp](mailto:ksaitou(at)naruto-u.ac.jp) か Fax：088-687-6411 で大会実行委員事務局・齋藤までご連絡ください。昼食弁当を予約される方はできるだけ同時をお願いします。

5. 公開シンポジウム「環太平洋の環境文明史」

趣旨：環境考古学という研究分野が日本で開始されて約 30 年になります。この分野の主題は、自然史を精緻に復元し人類の活動と自然環境の相互作用を明らかにすることであり、第四紀学はその重

要なバックボーンです。現在、文部科学省科学研究費補助金（新学術領域研究）の支援により、環太平洋のさまざまな地域で盛衰した古代文明を、環境変動という文脈で理解するための領域融合的なプロジェクトが進行しています。今回のシンポジウムでは、考古学・人類学・第四紀自然史の研究者による最新の成果を発表します。

日時：2011年8月28日（日）09:00～11:30

場所：鳴門教育大学講義棟 B101 講義室

世話人：米延仁志（鳴門教育大学）・山田和芳（鳴門教育大学）

プログラム（予定）

- 09:00- 09:10 趣旨説明 青山和夫（茨城大学）
- 09:10- 09:40 年縞堆積物による環太平洋諸文明の環境史復元 米延仁志（鳴門教育大学）
- 09:40- 10:10 マヤ文明と環境変動 青山和夫（茨城大学）
- 10:10- 10:30 （休憩）
- 10:30- 11:00 琉球列島先史・原史文化と環境 高宮広土（札幌大学）
- 11:00- 11:30 環境考古学の未来 安田喜憲（国際日本文化研究センター）

6. 普及講演会「徳島で考える地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」

趣旨：2011年3月11日に発生した東北地方・太平洋沖地震では、関東・東北の沿岸域に大津波が襲来し、未曾有の大被害をもたらしました。東海・東南海・南海地震の三連動地震が懸念される西日本の太平洋側沿岸域においても、今回の大津波災害の被害の実態から学ぶとともに、津波対策を再検討することが必要です。この普及講演会では、太平洋沖地震の津波災害調査結果の速報とともに、東南海・南海地震による過去の津波堆積物に関する最新の研究結果と、徳島における津波防災対策の現状と課題、加えて学校教育のなかに防災教育をどう取り込んで活用するかについての講演を行います。なお、本講演会は、文部科学省科学研究費補助金（公開促進費）「はてな？はっけん！四国の自然史：学校教育、生涯教育の両面から科学リベラルアーツの向上と科学リテラシー育成のために」からの支援を受けています。

日時：2011年8月28日（日）13:00～16:20

場所：鳴門教育大学講義棟 B101 講義室

世話人：西山賢一（徳島大学）、中尾賢一（徳島県立博物館）、山田和芳（鳴門教育大）

プログラム（予定）

- 13:00- 13:10 趣旨説明（西山賢一）
- 13:10- 13:40 3.11 東北地方太平洋沖地震からわかること～現地災害レポート 原口 強（大阪市立大学）
- 13:40- 14:10 南海・東南海地震研究の最前線 岡村 眞（高知大学）
- 14:10- 14:20 （休憩）
- 14:20- 14:50 地域の防災に関する講演（講演者・演題、確認中）
- 14:50- 15:20 学校教育と防災 植木岳雪（産業技術総合研究所）
- 15:20- 15:30 （休憩）
- 15:30- 15:50 総合討論・質疑応答

7. アウトリーチ巡検「100万年前の東四国を探る」（今年度は参加費無料）

趣旨：四国東部、讃岐山脈（阿讃山地）南麓の徳島県吉野川北岸には、土柱層とよばれる第四紀前半（約100万年前）の地層が分布し、九州からの火山灰層や讃岐山脈の北にある花崗岩礫なども含まれています。その近くには中央構造線活断層帯の破碎帯や断層変位地形がみられます。讃岐山脈北麓にも土柱層によく似た三豊層群が分布し、香川県に分布しない結晶片岩礫が含まれます。この巡検ではこれらを観察し、100万年前の東四国の古地理を考えます。また、国の天然記念物で、日本の地質百選に選ばれた「阿波の土柱」の成因や景観保護についても考察します。

なお今回は社会や学校教育等への貢献を念頭に、この企画を「アウトリーチ巡検」と位置づけ、初等・中等教育の関係者（教員、生徒、保護者）等、学会員以外の参加者を積極的に募集します。専門家に質問したり、専門家どうしの議論を聴くまたとない機会なので、地学に興味のある親子や小中学校や高校の地学関係、地理・歴史関係の先生方にとくにお勧めいたします。

日 程：8月29日（月）日帰り

案内者：中尾賢一（徳島県立博物館）・西山賢一（徳島大学）・長谷川修一（香川大学）・植木岳雪（産業技術総合研究所）・竹村恵二（京都大学）

参加費：無料（保険加入料実費のみ、数百円程度）。なお、参加費は文部科学省科学研究費補助金（公開促進費）「はてな？はっけん！四国の自然史：学校教育、生涯教育の両面から科学リベラルアーツの向上と科学リテラシー育成のために」（代表）からの支援を受けています。

昼 食：弁当・飲み物などを持参下さい。道の駅の喫茶コーナーや周辺の飲食店も利用可能です。

巡検の概要とスケジュール：移動にはすべて貸し切りバスを使用します。高松空港や徳島空港、高速バスなどで帰る方のために、解散はこれらの場所で分散して行います。

8:00 JR 鳴門駅出発

- ・父尾断層（中央構造線系活断層）の変動地形（遠望）

- ・100 万年前の火山灰層をはさむ土柱層（火山灰と花崗岩礫の観察）
- ・阿波の土柱（土柱火山灰の観察、土柱の成因と埋積）
- ・藍ランドうだつ（道の駅）で昼食
- ・美馬市中上の低角度断層（断層面と土柱層の観察）
- ・花崗岩と三豊層群の境界（不整合面と撓曲）
- ・結晶片岩礫を含む三豊層群（時間に余裕があれば実施）

15:30 頃 高松空港（第一次解散）

16:50 頃 徳島とくとくターミナル（第二次解散：関西方面等への高速バス対応）

17:00 頃 徳島空港（第三次解散）

17:30 頃 JR 鳴門駅で最終解散 天候および交通事情等により、若干の変更もあります。

募集人員：30 名程度

申し込み方法：参加希望者は、E-mail、Fax または電話にて、氏名・連絡先（住所・電話・メールアドレス）をお知らせ下さい。手違いを避けるため、極力 E-mail か Fax で連絡下さい。定員超過の場合のキャンセル待ち希望の有無もご指示下さい。先着順受付とします。定員に達し次第、受付終了とします。

申し込み先：鳴門教育大学科研プロジェクト室 齋藤恵子 (E-mail:ksaitou(at)naruto-u.ac.jp Tel/Fax088-687-6411)。電話での対応は、月曜から金曜日の 10 時～ 12 時、13 時～ 15 時とさせていただきます。

・受付後に個別に案内等を送付します。

・参加確認と保険代の徴収および資料の受け渡しは、会員の場合は学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。非会員の場合は、当日に行います。

・会員で巡検のみ参加される方は、申し込み時にその旨をお書き添えください。

申し込み締め切り：7 月 31 日（日）18 時

8. 申し込み締め切りなどの日程

○一般発表申し込み締め切り：2011 年 6 月 9 日（木）、講演要旨原稿と申込書を指定メールアドレス (jaqua2011(at)gmail.com) あて、または行事幹事（三浦英樹）宛に郵送

○一般発表講演要旨郵送締め切り：2011 年 6 月 9 日（木）、講演要旨原稿と申込書講演を指定メールアドレス (jaqua2011(at)gmail.com) あて、または行事幹事（三浦英樹）宛に郵送
行事幹事：〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3 国立極地研究所 三浦英樹

○巡検参加申し込み締め切り：2011 年 7 月 31 日（日）18 時、上記 7. 参照

○懇親会の予約締め切り：2011 年 7 月 29 日（金）、上記 4. 参照

9. 大会実行委員会

実行委員会委員 米延仁志（実行委員長、鳴門教育大学）・中尾賢一（徳島県立博物館）・西山賢一（徳島大学）・山田和芳（鳴門教育大学）
（連絡先）〒772-8502

徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748

鳴門教育大学・科研プロジェクト室

実行委員会事務局 齋藤恵子

E-mail：ksaitou(at)naruto-u.ac.jp

Tel & fax 088-687-6411（10 時～ 16 時）

○鳴門教育大学へのアクセス

本学ウェブサイトの交通アクセス情報

(<http://www.naruto-u.ac.jp/access.html>)

キャンパスマップ

(<http://www.naruto-u.ac.jp/campusmap.html>)

○宿泊

鳴門市内にホテルがあります。宿泊の予約は各自でお願いします。徳島市内のホテルも利用可能で、この場合は大学までバスがあります。時刻表等については徳島バスのウェブサイトをご覧ください (<http://www.tokubus.co.jp/>)。



キャンパスマップ

◆信州フィールド科学賞募集（信州大学）

信州大学山岳科学総合研究所では、2011 年度「信州フィールド科学賞」の募集を開始いたしました。詳細は当研究所のホームページをご覧ください。 <http://ims.shinshu-u.ac.jp/>

◆ INQUA (国際第四紀学連合) 招致に関する皆様へのお知らせ

一昨年の夏から活動してきました第 19 回 INQUA (国際第四紀学連合) 大会の日本招致ですが、4 月 26 日正式提案書を INQUA 事務局に送付致しました。5 月 1 日 (郵送、必着) となっておりますので、締め切り間近の送付になってしまいました。会員の皆様には、一昨年からのご協力、ご支援、本当にありがとうございました。以下は、提案書の概要になります。

――第 19 回国際第四紀学連合 (INQUA) 大会の提案――

◎会場：名古屋国際会議場 Nagoya Congress Center (NCC)

<http://www.nagoya-congress-center.jp/>

◎期間：2015 年 7 月 27 日 (月) ～ 8 月 2 日 (日)

◎メインテーマ：Quaternary Perspective on Climate Change, Natural Hazards and Civilization

◎主要サブテーマ：1) Quaternary science for natural hazard mitigation 2) Understanding and quantifying past changes in the Earth system for improving projections of future climate, sea level, and environment 3) Dynamics of human-environment interaction 4) Developing and integrating new technologies and integration for Quaternary chronology and stratigraphy

◎巡検：プレとポスト巡検 (11 件)、中日 1 日巡検 (8 件) 2011 年 4 月 25 日現在

◎登録料：事前登録 5 万円、遅延 / 当日 7 万円、学生・同伴者 2.5 万円

昨年行われた提案の事前申請では、日本の他にスペインから提案があったと聞いていますので、この 2 ケ国からの提案書の競争になります。採択までの手続きは、提案書が締め切られた後で、内容の不備がないかどうか INQUA 理事会でチェックされ、問題が無ければ、ベルン大会の国際評議員会で審議されます。立候補のプレゼンが行われ、1～2 日後に国際評議員会で投票により決定されることとなります。国際評議員会での投票は、分担金を支払っている正式メンバー国が各 1 票もっており、国際評議員会に出席しているメンバー国の投票で決められます。ベルン大会中に吉報を皆さんにお伝えできるように努力したいと思います。

今後とも、ご協力とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

齋藤文紀 第 19 回 INQUA 大会日本招致委員会 事務局 (inqua2015-k(at)m.aist.go.jp)

◆ 文部科学省・平成 23 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) の採択について

文部科学省による平成 23 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) 「はてな? はっけん! 四国の自然史: 学校教育、生涯教育の両面から科学リベラルアーツの向上と科学リテラシーの育成のために」が採択され、日本第四紀学会のアウトリーチ活動に対して支援されることになりました。具体的な活動としては、徳島大会の一環として 8 月 28 日 (日) の普及講演会、8 月 29 日 (月) のアウトリーチ巡検を行うとともに、2012 年 2 月 4 日 (土)・5 日 (日) にも普及・啓蒙イベントを徳島で計画しています。2 月のイベントにつきましては、今後通信で詳細を連絡いたしますので、どうぞご期待下さい。

行事担当幹事 三浦英樹、企画担当幹事 植木岳雪・高田将志

◆ 第四紀研究地学教育別冊号の刊行

図らずも東日本大震災が発生し、多くの方が亡くなられ、大きな被害が生じたことで、第四紀学をはじめとする地球惑星科学の責務は、今までより大きくなるでしょう。その一方で、学校教育における地学は存亡の危機にあり、平成 24 年度からの高等学校理科の新教育課程の実施に向けて、地学の重要性を多方面にアピールする必要があります。別冊号は全部で約 200 ページの論文集で、地学教育を中心として、理科教育、科学教育までひろく扱っております。

別冊号について、日本第四紀学会会員 (追加購入) および会員外の方への販売に対応いたします。皆様の周囲で地学教育に興味・関心のある方に手にとっていただけるよう、広く宣伝していただきたく思います。

【価格・送料】

・ 1 部 1000 円 (送料別)

・ 送料 = 1 冊 80 円、2 冊 160 円、3 冊以上は下記連絡先にお問い合わせ下さい。

冊子に同封する郵便振替用紙にて送金お願いいたします。

【購入方法】学会事務局へ直接連絡下さい (メール / FAX でお願いします)

〒169-0072 新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階 日本第四紀学会事務局

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com TEL : 03-5291-6231 Fax : 03-5291-2176

~~~~~  
 第四紀研究別冊号「学校教育で地学は生き残れるか? : 学会と教育現場との連携に向けて」

<緊急メッセージ>

遠藤邦彦・植木岳雪：東北地方太平洋沖地震の発生にあたって

<巻頭言>

- 遠藤邦彦（日本第四紀学会）：地学教育の前進のために
- 木村 学・畠山正恒（日本地球惑星科学連合）：第四紀研究地学教育別冊号の刊行にあたって
- 牧野泰彦（日本地学教育学会）：第四紀研究地学教育別冊号の巻頭言
- 橋本健夫（日本理科教育学会）：基礎科学に力を
- 吉田 淳（日本科学教育学会）：地学学習の重要性
- 宮下純夫（日本地質学会）：地学教育への期待と課題
- 市川 洋（日本海洋学会）：「賢い市民」を育てるために
- 神尾達之（早稲田大学教育・総合科学学術院）：研究の最先端から教育の最先端へ

<趣旨>

- 植木岳雪：別冊号「学校教育で地学は生き残れるか？：学会と教育現場との連携に向けて」の趣旨（解説）

<第1部 地学教育の歴史と新教育課程>

- 植木岳雪：地学教育の構造と総括的な研究に関する現状と課題（総説）
- 林 慶一：戦後の日本の地学教育の流れ（総説）
- 田代直幸：平成 19, 20 年度改訂の学習指導要領とこれからの地学教育（総説）
- 平野弘道：学習指導要領（平成 21 年告示）の成立過程（解説）

<第2部 地学教育と理科教育・科学教育>

- 遠西昭寿・桑原 淳・大嶋由加：地学教育を巡る諸問題—理科教育学の立場から—（総説）
- 川上紳一：魅力的な教材開発・アウトリーチ活動を通じた地球惑星科学と理科教育の連携（論説）
- 小川義和：社会とつながる科学教育—地域の資源を活用した地学教育から考える—（総説）

<第3部 地学教育の現状と課題：教育現場の視点から>

- 渡邊正人・佐藤真広・比嘉佳光：小学校における臨地巡検的な学習展開をめざした地学教材の開発—“川崎ジオポイント”の教材化の試み—（資料）
- 高橋和光：中学校の地学教育を取り巻く現状と課題（解説）
- 宮嶋 敏：埼玉県における「地球惑星科学実習帳」の作成：地学を専門としない教員が地学を担当するための支援（資料）

- 川村教一：高校生の地学教育への期待と研究者による地学授業の指針（論説）
- 中野英之：教員養成系大学における穴掘り体験の教育的意義（論説）
- 中井 均・中井睦美：教員養成課程学生の高等学校における地学の学習経験（資料）

<第4部 地学は生き残れるか：地学教育の今後の展望>

- 牧野泰彦：高等学校地学教育の振興に向けて：地質分野を中心にして（解説）
- 畠山正恒：高等学校地学と地理に期待される学会の役割（解説）
- 高木秀雄：早稲田大学教育学部地球科学専修における入試制度：一般入試地学特別枠を設けた背景（解説）
- 倉部史記：予備校からみた大学入試での地学の重要性（解説）
- 牧野泰彦：高等学校地学教員採用の現状と展望（解説）
- 藤林紀枝：理科教育地学分野の課題と関連学会の取り組み（提言）（解説）
- 轡田邦夫：海洋リテラシーの育成と日本海洋学会教育問題研究会の活動（解説）
- 田口公則：自然の知を統合化して地球を俯瞰させる視点（解説）
- 植木岳雪・遠藤邦彦：日本第四紀学会が地学教育に果たす役割（解説）

## ◆「第四紀露頭集—日本のテフラ」および第四紀研究特集号の特別販売

日本第四紀学会では、「第四紀露頭集—日本のテフラ」と第四紀研究特集号を、在庫限りにて 2011 年 8 月末日まで特価で販売いたします。この機会に、ぜひお買い求め下さい。

- ◎「第四紀露頭集—日本のテフラ」352 ページ 特別価格 1,000 円（送料別）  
日本の代表的な第四紀の地形・地層が観察できる地点が紹介されています。
- ◎第四紀研究特集号 特別価格 各 500 円（送料別）
  - ・2010 年 49 巻 3 号「古環境変動の解明に貢献する湖沼堆積物の役割」
  - ・2009 年 48 巻 3 号「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動」
  - ・2008 年 47 巻 4 号「瀬戸内海の変遷 —自然, 環境, 人」
  - ・2007 年 46 巻 3 号 50 周年記念シンポジウム「人類の環境を第四紀学から考える」
  - ・2006 年 45 巻 5 号「汽水域における完新世の古環境変動」
  - ・2005 年 44 巻 4 号「活構造と盆地の形成」
  - ・2004 年 43 巻 4 号「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」
  - ・2003 年 42 巻 3 号「日本アルプスの形成と自然環境の変遷」
  - ・2002 年 41 巻 4 号「南九州における縄文早期の環境変遷」
  - ・2001 年 40 巻 3 号「房総半島の第四紀」



(これ以前の号の在庫状況は事務局にお問い合わせ下さい)

送料は冊数や組み合わせにより変動します。送料のお問い合わせや、購入のお申し込みは事務局までお願いいたします。(できるだけメールか FAX にてお願いします)

【購入申し込み・問い合わせ】

〒169-0072 新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

日本第四紀学会事務局 E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/

TEL: 03-5291-6231 Fax: 03-5291-2176

### ◆日本第四紀学会 第 3 回幹事会議事録

日時: 2011 年 4 月 2 日 (土) 10:00 ~ 16:30

場所: 日本大学文理学部 本館 1F 会議室 C

出席: 遠藤、小野、竹村、百原、池原、植木、荻谷、佐藤、須貝、長橋、三浦、吾妻、奥村 (オブザーバー)、中野 (事務局)

各幹事の所掌事項ならびに日本学術会議関連について活動報告がなされた。また、下記のことについて議論した。

- 1) 4 月 1 日に実施した貸倉庫で保管されている事務局資料の整理作業について報告があった。事務局資料のうち会計書類の帳簿、伝票については 5 年間の保管期間を経た後に廃棄することを決めた。学会誌については 30 部を 3 年間保管した後、保存分 (各号 1 部) 以外を廃棄、学会予稿集については大会後 1 年で廃棄することとした。
- 2) 役員選挙について東日本大震災の影響を考慮し、実施延期の必要性を検討し、予定通りのスケジュールで実施することとした。次回の評議員会に役員選挙規定の一部改訂を提案すること

- とした。
- 3) 2011 年 3 月に刊行された別冊号の配布方法について検討した。
- 4) 入会案内資料について、過去に作成されたものを編集して電子ファイルを作成し、必要な用途に応じて内容を変更して利用することにした。
- 5) 功労賞候補者を決定した。
- 6) 学会賞等の選考方法について、選考規定の改正等を検討した。
- 7) 来年度予算案について支出削減方法と積立金の廃止等を含めて検討した。
- 8) 連合大会中 (5 月 24 日) に開催される次回の評議員会について、時間と会場を確認し、議題について検討した。
- 9) 東日本大震災への学会対応として、シンポジウム開催について検討を進めることとした。
- 10) 日本学術振興会賞の候補者推薦について検討した。
- 11) 次回幹事会を 7 月 9 日 (土) に開催することとした。

### ◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000 年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2011 年度 (2011 年 8 月 1 日 ~ 2012 年 7 月 31 日) を学生会員として継続希望される方は、A4 判の用紙 (様式自由・ワープロ使用) に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを 2011 年 7 月 31 日 (日) までに日本第四紀学会事務局まで郵送して下さい。 本届が提出されない場合は、2011 年度第 1 回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意下さい。

なお、2010 年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員 (PD) や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合せ・送付先: 〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号

新宿ラムダックスビル 10 階 日本第四紀学会事務局

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com TEL: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176

提出方法: 郵便に限ります。

### ◆大阪市立自然史博物館 特別展「来て！見て！感激！大化石展」のご案内

大阪市立自然史博物館では、平成23年7月2日（土）～8月28日（日）まで、特別展「来て！見て！感激！大化石展」を開催します。本特別展では、巨大なゾウや恐竜の化石から、琥珀に閉じこめられた小さな昆虫の化石まで、化石の魅力を余すところなく紹介し、地球環境の変化とともに生物が移り変わってきた様子を体感していただきます。

ゾウの歯や足跡、マンモスの毛、石になった木など、化石は様々な状態で地層の中に残されています。また、化石は、何億年という時代の流れとともに生物の種類が移り変わってきた証拠です。まるでタイムマシンで過去へ旅するように、「化石とは何か、どうやってできるのか、生物はどのように移り変わったのか」を知ることができる内容となっています。

第四紀関係の展示では、近畿地方の第四系から産出するゾウ、ワニ、カメ、貝、昆虫などの動物化石や植物化石を多数展示します。丹波竜・鳥羽竜などの恐竜化石を含む、近畿地方の化石が一堂に会するのも、本特別展の見どころの一つです。

多くの日本第四紀学会会員の皆様や関係の皆様の来場をお待ちしています。関連イベントについてはホームページをご覧ください。

会 期：平成23年7月2日（土）～8月28日（日）休館日：月曜日（ただし、休日の場合は翌日）

開館時間：9:30～17:00まで（入館は16:30まで）

会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL 06-6697-6221

地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m

JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m

観 覧 料：大人500円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下は無料。

主 催：大阪市立自然史博物館 後 援：日本第四紀学会、日本古生物学会、日本地質学会

### ◆海底地形名称の提案募集のお知らせ

海上保安庁では、海図や海底地形図などに記載する海底地形の名称を決定する「海底地形の名称に関する検討会」を下記のとおり開催します。開催にあたり、関係学会等に広く海底地形名称を募集することとしましたのでお知らせします。同検討会で決められた海底地形名は、海上保安庁海洋情報部のホームページで紹介しております。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/topographic/topographic.htm>

- 1 日時：「海底地形の名称に関する検討会」平成23年7月1日（金）
- 2 場所：海上保安庁海洋情報部会議室（東京都中央区築地5-3-1）
- 3 主な議題：海洋調査機関などから提案された日本列島の海底地形名称の検討
- 4 出席者：学識経験者（地理学、海洋底地球科学の各専門家）及び日本地理学会、関係機関（産業技術総合研究所、水産庁、東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構、海上保安庁海洋情報部）の職員からなる10名の委員。
- 5 検討会の趣旨：海洋調査機関などの海底調査で明らかになった海底地形に学術的な名称を付与して、無用な混乱を防ぐことを目的としています。海底地形の名称を決定する国内唯一の検討会です。
- 6 提案に関する問い合わせ先：提案地名がある場合は、以下の問い合わせ先にご連絡いただければ提案書を送付致します。提案期限は随時とし、今回の検討会に間に合わない場合は次回検討会に提案いたします。

（問い合わせ先） 海上保安庁海洋情報部航海情報課 主任海図編集官 今井義隆

FAX 03-3541-4388

### ★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 FAX:044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階

株式会社春恒社 学会事業部内 E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話:03-5291-6231 FAX:03-5291-2176